

印象に残っている教育活動

昭和50年、51年当時、私は小学校4年、5年生で、そろばん教室へ通っていた。遊びたい盛りに、友だちに誘われて少しだけ通った。もともと興味もうすく、指先も器用でなく、根気がないので、成果はほとんど上がらなかった。教室の先生は、自分の親より数歳年上の女性で、算数の教室や高校の商業の講師もおこなっていた。そして何より厳しい。

教室が始まる時に、騒がしかったら、まずお説教。正座させて延々と続く。稽古が始まったら、順次個別指導。先生の前で背筋を伸ばし正座して指導を受ける。おしゃべりやふざけたことでもしたら、個別に延々とお説教が続く。だからみんな真剣に必死に稽古した。

夏休みだったと思うが、今でも印象に残ることがある。

そろばん教室で、白山ろく少年自然の家へ行き、合宿を行った。

当時は、野町から石川総線と金名線で白山下まで続いていた。終点からてくてく歩いた。

また、公立の自然の家は宿泊児童各自に「米」を持参させていた。

(こんなこと知っている世代も相当歳をとってきていると思う。)

この合宿で先生は、「おやつ禁止令」を出した。みんな文句たらたら。しかし先生は子供に理由を延々と説明した。先生は、入所の集いの挨拶でも、

「今の子供たちは、お菓子をはじめ食べ物が豊富にあり、食べたいとき好きなだけ食べることができるようになった。幸せだ。しかし、1日3度の食事、ご飯のおいしさがわからなくなっている。今回の合宿は、お菓子を一切禁止し、活動をすることで、お腹がへり、ご飯の本当のおいしさをわからせたい。」

と、子供に言ったことを話した。

その後、教員になり、40年間、なぜかたまに、この先生の指導や言葉が思い出されてきた。学校で日頃の生徒指導を行うとき、学校行事を企画するとき、今では実現することが困難なことが多いが、哲学はどこか生きているように今も感じている。

何年か前に、もう亡くなったかな・・・と思ったことがあったが、地図を見るとお名前がある。お元気なのか。

先日、新聞にお悔やみ記事が出ていた。お参りに行こうか1日迷ったが、行かなかったら後悔するだろうと決心し、相当遅い時間だったが、理由を説明して焼香させていただいた。ご親族も喜んでくださった。先生のご冥福をお祈りする。